



# Team石川



小中一貫CSだより第63号 令和3年6月21日 文責:木村 傑  
めざす子ども像(15歳の姿):石川小・中学校や地域に誇りと感謝をもつ生徒

## 小中合同による防災のための大切な訓練



5月19日(水)小中集団下校訓練を実施しました。災害は、いつ起こるかわかりませんし、発生するとそれまでの日常生活を簡単に奪ってしまうことだってあります。そんな災害時に、児童生徒が自分の命や身を守り、保護者のもとに無事に帰ることができるよう

にするため、小学校と中学校が協働体制をとることはとても大切なことであり自然な取組です。2年ぶりとあって最初は多少戸惑いもあったように思いますが、町会ごとに中学生が小学生をはさむように整列し、交通安全等に注意を払いながら無事に帰宅しました。小学校・中学校の教員もそれぞれのグループについて、帰宅の様子を見守り安全を確認しました。

次回の防災訓練は、9月1日(水)小中合同引き渡し訓練を予定しております。こちらは、保護者や地域にご協力いただくこととなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。なお小学校では、この日に合わせ、防災に関する体験活動も計画中です。詳細が決まりしだいお知らせします。(防災教育推進事業の指定を受けています。)



## 児童生徒によるボランティア清掃活動

5月25日(火)小中合同ボランティア活動を行いました。小学校は計画委員の児童7名、中学校は各委員会副委員長10名が参加しました。地下道や国道7号線沿の歩道のゴミ拾いを行いました。子どもたちは、ゴミを見つけては足を止め拾ってくれました。放課後の作業だったため30分ほどの時間でしたが、学区の環境美化に大いに貢献してくれま



した。

一般に、清掃活動は環境がきれいになるといった目に見える成果をもたらしますが、加えて、目に見えない大切なことをも教えてくれます。熱心に取り組むほどに、また、ボランティアであればなお一層、人のため社会のために貢献できたという充実感と善意に満ち、やってよかったという気持ちに気づかせてくれるものです。参加した児童生徒の皆さん、お疲れ様でした。環境美化の輪が一段と広まることを期待します。

## 保護者・地域と共に～協力に感謝の学校行事～

### 【石川小学校 運動会】



5月23日(日)小学校運動会を行いました。前日までの雨模様の天気が心配されましたが、当日は回復し、早朝から保護者の方が進んでグラウンド整備にあたってくださったおかげもあって、実施できる運びとなりました。また、町会からテントを貸していただいたり、テント設営では保護者に協力いただいたりと、あらためて、学校行事は保護者・地域あってのものと感じました。



午前のみの実施となりましたが、子どもたちは生き生きと競技に全力を尽くし楽しんでいました。赤・白が同点の両組優勝ということで、子どもたちの頑張りを温かく見守り応援して下さる全ての人の思いが形になったかのうようでした。

### 【石川小学校 P T A資源回収】



6月4日(日)小学校でP T A資源回収が行われました。保護者や地域の方々には、多くの資源を学校に持ち込んでいただきました。お持ちいただいたことや集まった資源の仕分けなどに、保護者や地域の温かいご協力・ご支援をいただきました。ありがとうございました。



今後ともお世話になります。引き続きよろしくお願ひします。

## 県警主催「命の大切さを学ぶ教室」

6月1日(火)青森県警察本部警務部警務課犯罪被害者支援室主催による「命の大切さを学ぶ教室」が石川中学校で実施されました。犯罪被害者やその遺族が置かれた状況、犯罪被害者支援の必要性、命の大切さなどについて理解を深め、社会全体で被害者等を支える気運の醸成や規範意識の向上を目的に、県内の学校で行っているとのこと。

DVDの視聴(高校生の兄を同級生の暴力によって亡くした中学生の妹や両親が、周囲の支えを得ながら、苦しさを乗り越え日常を取り戻していく過程をテーマとしたドラマ)やワークシートの記入、講師の方のお話、感想文の記入などを通じて学習しました。

あらためて‘命’を深く考える機会となり、何ものにも代えられない、かけがえのない‘命’の大切さや家族の絆について再確認できた貴重な学習となりました。生徒は真剣な態度で学習し、事後に、講師の方も全校生徒の真剣な様子をほめてくださっていました。



弘前  
県警犯罪被害者支援室が

### 被害者の気持ち考えて 石川中で 命の大切さを学ぶ 県警教室



主催する「命の大切さを学ぶ教室」が1日、弘前市の石川中学校(木村傑校長)

被害者の気持ちになって考えながら啓発ドラマを視聴する生徒たち  
で開かれた。参加した生徒たちは上映されたドラマや講師の話を通じて、命の重さを学んだ。  
命の大切さを学び、罪を犯してはならないという意識の向上を図るために、毎年開いており、同校では13年生約60人が参加。被害者の気持ちになって考えながら啓発ドラマを視聴し、犯罪被害者支援の必要性について理解を深めた。  
ドラマは高校生の長男をいじめによる暴行事件で亡くした家族が、さまざま

記事は6月5日(土)陸奥新報に掲載されました。

困難を経て日常を取り戻していくという内容で、犯罪被害者家庭を取り巻く環境などが描かれている。3年の須藤千晴さん(14)は「はじめがあったときは、すぐに誰かに相談や報告をするようにしたい」と語った。  
(石井尚太)